植木病院だより

Vol.3
平成17年10月

発行所 〒861-0136 熊本県鹿本郡植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117
植木町国民健康保険 植木病院
発行人 鳥越 義継



■病院機能評価認定に寄せて

植木町国民健康保険 植木病院
院長 鳥越 義継

当院はこのたび(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を受け、7月25日付けで審査体制区分2(Ver.4.0)の認定証交付を受けました。

病院機能評価とは(財)日本医療機能評価機構が第三者の立場から病院の医療提供体制を厳格な評価基準のもとに総合的に分析評価し、一定のレベルに達している施設に対し認定を行うものです。7月25日の時点で日本の全病院9,122病院のうち当院を含め1,696病院が認定を受けています。

当院の場合「病院組織の運営と地域における役割」、「患者の権利と安全の確保」、「療養環境と患者サービス」、「診療の質の確保」、「看護の適切な提供」、「病院運営管理の合理性」、「療養病床に特有な病院機能」の7領域、602項目に対する審査が行われました。

新病院が開院してやがて3年、この間全職員で自らが提供している医療の見直しと改善に取り組んでまいりましたが、今回の認定に満足することなく、今後もこの取り組みを続け基本理念の「信頼と満足の得られる全人的医療の提供」につなげて行きたいと思います。

◀ホスピタルストリート正面、中庭に設置されているモニュメント「春風」

部署訪問

今回は療養病棟を紹介します。

療養病棟は、急性期での治療が終わったものの、退院にあたってまだリハビリ等が必要な方が療養生活をおくられている病棟です（医療保険対応：39床）



■療養病棟の一日

病棟の朝はすべての患者様を起こすことから始まります。病室から離れ他の患者さまとふれあいながらデイルームで食事をする事で、生活にメリハリをつけることができます。このことで、限られたスタッフの介助の効率がよくなり、ゆっくりと患者様のペースに合わせて見守る事が出来ます。その結果、自立度が上がり、食事量の増加がみられています。

■生活リハビリ

一般に「リハビリ」と聞くと、リハビリ室で行うような歩行訓練や作業療法を思い浮かべがちですが、当病棟では、日常生活の中での生活リハビリを中心に行っております。怪我や疾患で失われてしまった力を取り戻す事は、医療が進歩した今でも困難な面があります。そこで、残された力を活かす事、もてる力・健康な力を活用し高める事を目標にリハビリに取り組んでいます。

■排泄ケア（コンチネンスケア）

また現在、排泄ケアにも力を入れており、「コンチネンスケア=気持ちよく排泄出来るよう環境を整えていく」に取り組み、排泄パターン観察、下剤管理などを行いトイレ誘導、自然排便への挑戦を着々と進めています。

■在宅復帰に向けて

重点テーマとして"退院後の在宅復帰"を目標に、ケースカンファレンスを開催しています。メンバーは、本人・家族・ケアマネージャー・病院医療チームで、ご本人の意向を取り入れ、よりよい退院後の生活が送れるよう、入院中から、かかわりの中に活かしております。一方院内での医療チームによるカンファレンスも毎週開催し、退院後の生活状況へのフォローアップも行っています。

■地域との関わり

また、ボランティアの協力で、お茶会・散歩などを行い、地域の方々とふれあう行事の中で、回復につながる変化と喜びを味わっております。今後は音楽会なども企画し、新鮮な外の風を運んでいただけるような機会を創りたいと考えております。

これから療養病棟の役割は、ますます大きなものとなります。満足度の高い療養生活から自宅（あるいは施設）への生活へと移行できる

TOPICS

「ICLS研修会」が院内で開催されました。

このICLSコースは、突然の心停止に対する最初の10分間の蘇生処置に関して重点を絞った研修内容になっています。

心停止は医療機関のどのセクションにおいても起こりうるものであり、いったん発生すれば蘇生を開始するまで少しの猶予もなく、チームの一員として蘇生を行なうことがあらゆる領域の医療者に求められます。

そこで第1回目として、師長・主任・救急委員の看護師を対象に行なわれました。

病棟勤務中に急変患者を発見したという想定で、実際の臨床場面をシミュレーションしながらそれぞれ演習を行ないました。

内容としては急変の発見から、スタッフが集まるまでの間の救命処置や、集まったあとのチームリーダーとしての役割を場面設定が与えられ、これを考えて判断していくといった訓練でした。

たとえば、VT.VFやPEAや心停止の波形に遭遇した場合は、どう動くかひとりひとり場面をその都度かえ、次は何の設定か、どんな状況かなど、かなりドキドキしながら望みました。テキストによる講義では、わかったつもりでいましたが、実際に動こうとするとスムーズに行なえなかったり、確認事項が抜けたり、考え込んだりするなど難しいもので した。普段チームリーダーは医師が行ないますが、今回は、各自がリーダーとして指示を出すことで、とるべき行動や判断がわかり、実際の場面でチームの一員として行動するときに、何を行なうか予測できると思いました。

救急の看護は、本質的には一般看護と異なるわけはないのですが、患者の特徴から求められる看護の役割を学びました。

① 素早く的確な判断
② 救命のための基本的技術の習熟
③ チーム医療としての役割
④ ME器機の取り扱いと看護援助

緊急時に救命処置が遅れると救命率は下がってしまうので、手間取ることなく速く正確に対応できることが大切であると再確認し、復習することで質の向上に努めていきます。



診療情報便り

リハビリテーション

リハビリテーション療法科は理学療法部門と作業療法部門、物理療法部門より構成されています。

H14年に理学療法および老人理学療法Ⅱの施設基準を認可、H16年に作業療法および老人作業療法Ⅱの施設基準を認可されました。スタッフ数は理学療法士3名、作業療法士1名で行っています。

基本方針は①急性期から在宅・施設復帰へ向けたリハビリテーション医療の提供②地域患者を中心とした（急性期病院からの受け入れに伴う）二次的リハビリテーション医療の完結を掲げております。

主な対象疾患は各種の骨折、脳血管障害、頚・脊髄損傷、パーキンソン病、靭帯損傷、腱断裂、腰痛症、変形性膝関節症、肩関節周囲炎(五十肩)、頚椎捻挫、廃用症候群などで、それぞれ目的に合わせて理学療法、作業療法、物理療法を行っています。

機能回復を第一の目標としてリハビリテーションを行っておりますが、疾患によっては病前・受傷前の状態に回復することが医学的に困難な方もいます。その方の持っている機能を最大限に引き出し、できる限り自立に近い状態にもっていく手助けをすることも重要であると考えています。その中には環境整備や精神面のケアなども含まれており、一人ひとり一番必要なことを重点的にアプローチできるよう日々努めております。

ベッドサイド



入院早期よりベッドサイドにてリハビリを開始します。特に手術が必要な場合は術前より開始し、状態が安定していれば術後1週間以内にベッド離床を目指しています。早期に開始することにより筋力低下や関節拘縮など2次的障害を最小限に防ぎます。

屋外歩行



発症前の生活範囲が屋内だけでなく屋外まで広い場合、必要に応じて屋外の歩行練習を行っています。特に足場の悪い芝生の上や砂利、坂道など日常よく遭遇する環境にも適応できる歩行能力を獲得することを目標にしています。

食事動作

日常生活動作に障害がある場合、その場面の動作を想定して練習を行います。また、実際の生活の場の中でも練習、介助指導などを行っております。福祉用具の選択を行い、有効活用することによって自立獲得や介助軽減に役立てています。



調理動作

日常生活動作だけでなく、家事動作など必要な場合にも退院後すぐより行えるために実際料理などを作り、在宅復帰につなげています。



平成16年度 リハビリテーション療法科実績

平成16年度リハビリテーション依頼件数

平成16年度リハビリテーション依頼件数

外来からのご案内

◇健診科

①人間ドック（オプション有ります。）
●日帰りコース　●通院2日コース　●1泊2日コース

②生活習慣病予防健診

③企業健診

④乳がん検診　触診とマンモグラフィー（町の助成金有り）
（お問い合わせは、国保植木病院
医事係　TEL096-273-2111内線101）

◇健康教室:3ヶ月に1回（5月・8月・11月・2月に実施予定）
内　容:食事会と講演会
場　所:国保植木病院　2階会議室

◇糖尿病教室:毎月第1・2・3木曜日　国保植木病院2階会議室
（お問い合わせは、国保植木病院　外来内科
TEL096-273-2111（内線140）

外来診療のご案内

（平成17年4月1日現在）

	診療科＼曜日	月	火	水	木	金	土
午前	内科	勇	勇	勇	勇	田渕	担当医
		田渕	松岡	田渕	松岡	松岡	
	循環器科	新冨	鶴田	西嶋	鶴田	福永	
	外科	鳥越	久米	宮村	久米	犬塚	担当医
	整形外科	緒方	紫垣	緒方	紫垣	緒方	担当医
	脳神経外科				担当医（第2・第4木曜日）		
午後	総合診療科	勇	田渕	松岡	松岡	田渕	

※午後は総合診療科として担当医が対応し、必要な場合は各科医師が対応します。
土曜日は交代で各科担当医が対応します。
脳神経外科は第2・第4木曜日の午前中のみで熊本大学付属病院医師が担当します。
循環器科新冨医師、西嶋医師、福永医師は熊本大学付属病院医師です。

診 察 日:月曜日 ～ 土曜日
休 診 日:土曜日の午後・日曜日及び祝祭日
年末年始（12月29日から翌年1月3日）
受付時間:平　日 ／ 午前 8:30 ～ 午前 11:30
午後 1:00 ～ 午後　4:30
土曜日 ／ 午前 8:30 ～ 午前 11:30
※ただし、急患の方は、いつでも受診できます。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」を平成14年12月に開設しましたので、ご活用下さいますようお願い申し上げます。

■地域医療連携室
担当者：寺下いず美
電　話：TEL096−273−2111（代表）
096−272−0854（直通）
FAX096−272−0854（直通）



交通アクセス

九州産交バス
「町立病院・かがやき館前」バス停下車
熊本ー山鹿線をご利用の方は、「五霊中学校前」バス停下車
徒歩5分

乗用車
・熊本市中心部より30分
・山鹿市中心部より30分
・九州自動車道　植木インターから10分

藤崎八幡宮秋季例大祭が終わり、本格的な秋が訪れめっきり寒くなってきました。この事を熊本では「随鉄寒夜」と言います。朝夕の冷え込みに注意し、手洗いやうがいなど心がけ風邪をひかないようにしましょう。

先日、今春就職して東京に行った子供が半年ぶりに帰省しました。現元を初めて離れたので気がかりでしたが、久しぶりに会い一段とたくましく成長した姿を見て嬉しく思いました。色々と心配ですが遠くから温かく見守っていきたいと思います。

子供の独り立ちとちょうど一緒の頃に創刊された「植木病院だより」も、半年たち3号を発行する事になりました。これからもさらに充実した広報誌にしていきたいと思います。

病院に対するご意見やご感想などをお寄せいただければ幸いです。

検査科　徳永

編集後記

ＣＴを使って、ツタンカーメン王のミイラを解析するといった内容のＴＶ番組が放送されていました。そこでは、ミイラの三次元立体画像を制作するため断層画像を0.5ミリメートルの厚さでスライス（輪切り）していました。この薄くスライスした画像を重ねあわせて三次元立体画像を制作しますが、ツタンカーメン王の身長が167センチメートルあったということなので、1枚の画像の厚さが0.5ミリメートルならば、画像の総数は約3400枚にもなります。約3400枚の画像を使って、約3400年前のミステリーに挑んだものではあるが、技術の進歩により、そこは数十秒という短い検査時間で終わってしまうものなのです。（実際、三次元画像の構築・解析には多くの時間がかかります。）ＣＴなど、ここ十年間程ですさまじく進歩し、次々に進化したもの、改良されたものが登場します。当院で使用しているＣＴ装置も進化の形を示したものではありますが、まず、必要なことは技師自身が、その進化の流れに乗ることでしょう。ＣＴの歴史はとても浅く、近年、急速に進歩しています。この新しい動きを意識し、常に知識を磨き、自身のスキルアップに努めていきたいものです。治癒困難な疾患や、こういったツタンカーメンのミステリーのようなものがある限り、医療技術の進歩は止まらないでしょう。

放射線技師